



## 遠のく戦後 平和を誓う

8/15 穂高霊社手筒花火

穂高霊社みたままつり手筒花火が8月15日、穂高神社北神苑で行われました。

手筒花火が行われるのは今年で22回目。戦没者の遺族でつくる会が、故人をしのび、平和を誓うため毎年、終戦記念日に行っています。打ち上げられた41本の手筒花火は、だいたい色の火柱となった後、いくつもの光線に変わり、夜の闇へ降り注ぎました。代表の等々力立男さんは、「戦後が遠のく中、行事を絶やさず、平和と自由のメッセージを後世に伝えたい」と話しました。



## 初開催 夜のミュージアム

8/24 安曇野アートライン・サマースクール事業

安曇野にある9つの美術館、博物館は、夜まで開館時間を延長し、イベントなどを行う「夜のミュージアム」を8月24日から2日間開催しました。

このイベントは、昨年、安曇野ジャンセン美術館が始めたことがきっかけとなり、共同開催しました。豊科近代美術館(写真)では、ジャズレコードコンサートが行われ、来館者は昼間とは違う美術館の雰囲気の中、その音色を楽しみました。

## 合言葉は「安曇野はひとつ」

8/14 安曇野花火大会

第1回安曇野花火大会が8月14日、明科の御宝田遊水池西側の犀川河川敷で行われました。

同花火大会は、これまで明科と穂高地域で行われていた花火大会を統合し、市民の一体感をはぐくむイベントにしようと、市商工会青年部の有志が企画。この日は、市内外から多くの家族連れなどが訪れ、安曇野の夜空を彩る約3,000発の大輪の花に酔いしれました。



## 盛況 三郷の夏祭り

8/11 ふるさと夏祭り

三郷地域で恒例となっている「ふるさと夏祭り」が8月11日、三郷文化公園で開かれました。

公園内には、各種団体などによる出店が並び、子どもからお年寄りまで、大勢の人でにぎわいました。ステージでは、和太鼓や踊りの披露のほか、地区の子供会などで製作した子どもみこしが会場内を練り歩くなど、祭りを盛り上げました。

フィナーレには、約1,000発の花火が公園内にあるグラウンドから打ち上げられ、集まった人たちは間近に迫る音と迫力に歓声を上げていました。



## 郷土の誇り 照らすかがり火

8/18 信州安曇野薪能

信州安曇野薪能が8月18日、明科の龍門湖公園で行われ、約800人がつめかけました。

薪能は今年で17回目。国の重要無形文化財保持者の故・青木祥次郎氏の生まれ故郷が明科であることがきっかけとなり始まりました。今年には青木道喜氏、人間国宝の片山九郎右衛門氏らが、「羽衣」や「大会」などの能や、舞囃子、狂言を演じました。

この日のため設置された特設能舞台の周囲には、かがり火が燃え、暗がりから幻想的な舞を浮かび上がらせました。



## 納得のいく方法を選んで

8/30 第2回安曇野市夏期大学

安曇野市夏期大学が8月30日、穂高会館で開催されました。

今年には講師にエッセイストで、故・逸見政孝夫人の晴恵さんを招き、講演会を開催しました。逸見さんは、ガンで亡くなった夫の闘病生活を振り返り、「自分で納得のいく治療方法を選び、自分の健康管理に気を使うことが大切」と治療の在り方を話しました。来場者は、実体験からくる重い言葉に熱心に耳を傾けていました。